

# 鳥取県淀江産業廃棄物処理施設計画地地下水等調査会第2回会議の概要

鳥取県淀江産業廃棄物処理施設計画審査室

- 1 日時 5月17日(日) 午前10時から午後0時15分まで
- 2 場所 西部総合事務所 講堂 (傍聴は新館会議室においてモニター傍聴)
- 3 委員 しまだじゅん 嶋田 純 熊本大学名誉教授【会長】、すぎたふみ 杉田 文 千葉商科大学教授、いとうひろこ 伊藤浩子 一般財団法人地域地盤環境研究所主任研究員、かつみたけし 勝見 武 京都大学大学院教授、こだまよしのり 小玉 芳 敬 鳥取大学教授  
※ 新型コロナウイルス対策のため、全委員がWEB会議で出席

## 4 結果

### (1) 調査計画

第1回調査会で決定した調査方針を踏まえ、詳細な調査計画を決定。

#### ア 地質調査

- ・計画地周辺は、台地、谷、平地が入り組んで非常に複雑なため、新たにボーリングを実施(11地点：合計25本程度)し、計画地一帯の地質や地下水の状況を詳細に把握する。
- ・既存ボーリングデータを今回のボーリング結果と対比させ、活用を図る。
- ・効率的にボーリング調査を実施するため、パイロット調査(ボーリング3本)を先行して行い、その結果を踏まえ本調査(ボーリング22本程度)を行う。

#### イ 水文調査

- ・降雨、河川流量、地下水位の関係把握するため、計画地周辺の河川流量、地下水位を連続観測する。季節に伴い降水量等が変化するため1年以上観測する。

#### ウ 水質調査

- ・地下水、河川水等の水質分析を行い、水質の類似性などから地下水流動解析の参考とする。

#### エ 解析

- ・調査で得られた地形・地質構造、地下水の状況などを取り込んだモデルを構築し、表流水、地下水の流れを3次元浸透流解析(シミュレーション)で再現して、計画地から水源地・湧水地までを含む広域地下水流動の解析を行う。
- ・解析範囲は、(北)日本海、(南)精進川、(東)孝霊山の尾根筋、(西)佐陀川まで。約30km<sup>2</sup>。

#### オ スケジュール

- ・速やかにパイロット調査に着手する。本調査ではボーリング(8~10月頃)後、10月頃から地下水位連続観測を1年間実施する。
- ・シミュレーションは、モデル構築を前倒して観測と並行させる。
- ・結果が出るのは、来年秋以降(終了後のインタビューでの嶋田会長の発言)

#### 【主な意見】

- ・パイロット調査のボーリングは、深度を固定して掘るのではなく、目標としている地層(溝口凝灰角礫岩)まで掘ることが重要。
- ・1本1本の掘削(ボーリング調査)は、時間がかかっても丁寧に実施すること。
- ・非常によく練られた計画だと思った。大山の方から来た地層と孝霊山の方から来た地層の違いがあるか見るべき。
- ・現地での水質測定の結果を見て、必要があれば分析項目を増やすことも検討すべき。

### (2) 公開規定

会議の公開について、感染症防止対策として必要がある場合は別室でのモニター傍聴等によることができるよう公開規程を一部改定した。

### (3) 傍聴者：28名

## 5 今後の予定

第3回会議は、令和2年7~8月頃を予定。

パイロットボーリングのコアを確認し、本調査計画の内容について、必要な検討を行う。